

部長名	環境部長
-----	------

部のミッション

環境政策の立案と環境教育・環境学習の推進を通じ、地球環境と自然環境を守り、地球温暖化防止や資源循環を進め、将来世代に引き継ぐ持続可能な地域社会を実現する。

部のビジョン

環境政策と環境教育の推進を軸に、脱炭素、資源循環、自然環境保全、生活環境に関する施策を総合的かつ計画的に展開し、接続可能な地域社会の実現に向け、市民・事業者との協働を基本に庁内外の連携を重視しながら実効性の高い環境施策を推進する。

重要度が高い事務事業

番号	施策番号	細施策番号	事業名	重要度が高いとする理由	事業実施課
1	34	1	環境負荷の低減	2050年カーボンニュートラルの実現に向けた地球温暖化対策の重点取組であり、成果が求められる。	環境政策課 (ゼロカーボン推進担当)
2	33	2	環境保全活動の啓発	新規設置された環境学習推進課における新規事業であり、課の目標達成のために確実に事業を進めていく必要がある。	環境学習推進課
3	37	1	水循環の保全	都市環境委員会所管事務調査事項で「グリーンインフラ」がテーマとなっており、重点的に進める必要がある。	環境保全課 (水とみどり担当)
4	37	1	管路建設改良費	道路陥没事故等を未然に防ぐために、下水道施設等の整備、老朽化した下水道施設の延命化、管路改築工事を早急を実施することが重要である。	下水道課
5	33	1	北野地区施設再編検討	北野地区の跡地活用基本構想における公共施設の再編のため、跡地活用に向けた施設再編検討調査等を着実に進める。	環境学習推進課 資源循環課 下水道課
	35	2			
	37	1			
6	37	1	固定資産除却損	不用となった旧北野下水処理場の解体を行い、北野地区の跡地活用構想を着実に進めていく。	下水道課
7	37	1	(収入管理)	下水道事業を効果効率的に執行を行うには、下水道使用料等の公平公正な収入の確保は喫緊の課題である。	下水道課 (下水道経営総務担当)
8					
9					
10					

施策番号	34	細施策番号	1	細施策名	CO2排出量の削減	事業名	環境負荷の低減
目標設定にあたって重視した点				DXの推進又はカーボンニュートラルの達成			
【目的】		【目標（2030年のあるべき姿）】			【目標（年度末のあるべき姿）】		
「八王子市地球温暖化対策地域推進計画」（以下「計画」という。）の計画期間である令和5年度（2023年度）から8年間の目標を達成する。		温室効果ガス排出量の2013年度比46%削減			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画の取組みの進捗管理と各所管における施策について情報共有を図る。</li> <li>○ ゼロカーボンシティの実現に向け、職員が意識して庁内率先行動に取組やすい環境が整備されている。</li> <li>○ 市内企業と連携し、ゼロカーボンシティに向け具体的な取組を推進している。</li> </ul>		
【現状】		【課題】			【事業内容】		
1 ①ゼロカーボンシティの実現を目指すため、計画の実行計画（事務事業編）により市が率先して地域の温室効果ガス削減の取り組みを進めている。 ②市の率先行動だけでなく、市民、事業者の協力を得ながら進めている。 ③市民、事業者及び職員の意識啓発と普及啓発活動を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>①計画に基づく、庁内取組の進捗状況の確認を通じた調整所管としての有効な誘導策の構築。</li> <li>②職員の意識醸成が難しく庁内連携が希薄となっている。事業の見える化など、庁内会議の場や関連事業を通じた協体制の構築。</li> <li>③地球温暖化防止活動推進員との連携により、市民、事業者に対するゼロカーボンシティ実現に向けた普及啓発。</li> <li>④地球温暖化を進めないためのCO2削減（緩和策）を進めると同時に、すでに進行している温暖化の影響に備えて暑さ対策（適応策）も強化していく必要がある。</li> </ul>			<p>市民・事業者・地域地球温暖化防止活動推進センター（クールセンター八王子）と連携し、気候変動により生じる影響を回避・軽減する。また、市民一人ひとりの生活が豊かになる、ウェルビーイングの実現、生活の質の向上を同時に達成できるよう取組を進める。</p> <p>【継続】R8.4～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再エネEV充電器利用 550件 △2t-CO2</li> <li>・東京都再エネ・省エネ補助金等</li> </ul> <p>R8.4.22～ 暑さ対策補助金25件 △1t-CO2</p> <p>【新規】R8.5～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業との協定によるJクレジット検討 ・ZEBの検討・周知 など</li> </ul> <p>CO2削減率3.0%を目指す ※目標値46%（2013年度比）に対して2022年度15.4%（八王子市HP公表値）</p>		
施策番号	33	細施策番号	2	細施策名	環境人材・ネットワークづくり	事業名	環境保全活動の啓発
目標設定にあたって重視した点				多様な主体との連携			
【目的】		【目標（2030年のあるべき姿）】			【目標（年度末のあるべき姿）】		
子どもたちが環境に関し理解を深め、将来にわたって環境活動を担う人材となること、さらにインタープリターとして八王子市の魅力を他者に発信し、その情報を受け取った市民の環境保全意識の向上や郷土愛が醸成され、広がっていくことで八王子市の自然環境を次世代に引き継いでいく。		インタープリターが将来にわたって環境活動を担う人材となり、また、発信した情報を受け取る方が増えることで、環境の保全のために行動した市民の割合が増加している。			子どもインタープリター養成塾受講者が、自らが感じた魅力や感動を他者に伝えるための人材として成長している。 市民が環境の情報発信者になることで、情報の発信量が増え、啓発効果の底上げにつながる。		
【現状】		【課題】			【事業内容】		
2 単発のイベントや講座による「環境に興味を持つきっかけづくり」が多く実施されている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・単発のイベントや講座による「きっかけづくり」から、より深い学びへと発展させる取組が必要。</li> <li>・環境に関する人材の不足</li> <li>・継続的に活躍の場を用意することで持続的に環境に関われるようなコンテンツやプログラムを準備する必要がある。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタープリター養成塾を委託により実施。自然体験講座をはじめ様々な環境分野について学ぶ年間を通じた連続プログラムとして設計。また常に発表・発信することを意識しながらプログラムを進めていく。</li> <li>・修了した子どもたちが、持続的に環境に関わり活躍できるように、環境フェスティバルやガサガサ探検隊といったイベントでの受け入れ体制を構築する。各イベントの魅力発信する人材が増えることで、イベントの実施効果を向上させる。</li> <li>・3カ年の事業として構築しており、前年度の修了者は先輩インタープリターとして次年度の事業運営に加わる。</li> </ul> <p>R8・9・10で修了者の増加を図る。</p>		

3	施策番号	37	細施策番号	1	細施策名	水循環の再生と水質保全	事業名	水循環の保全	
	目標設定にあたって重視した点					多様な主体との連携			
	【目的】			【目標（2030年のあるべき姿）】			【目標（年度末のあるべき姿）】		
	<p>昨今の気候変動の影響による集中豪雨などの水害対策として、雨水流出抑制に資するグリーンインフラのひとつである雨庭（レインガーデン）の普及啓発を進める。</p>			<p>・庁内において、「グリーンインフラの活用が当たり前」の組織の実現。 ・一般家庭や事業所において、雨庭が選択肢に入り、設置されている。</p>			<p>・雨庭に限らずグリーンインフラが「自然の多様な機能を活用した社会資本」という認識が庁内で進んでいる。 ・公共施設への設置が進み、雨庭に関する知見が深まっている。</p>		
【現状】			【課題】			【事業内容】			
<p>・令和6年度より公共施設内にモデル雨庭（レインガーデン）を設置している。</p>			<p>・雨庭、さらにはグリーンインフラの考えが、市民はもとより庁内でも認知が薄い状態である。 ・雨水流出抑制として雨庭を取り入れたが、技術的手法確立や浸透量など定量評価の効果検証はこれからである。 ・今年度、都市環境委員会の所管事務調査のテーマがグリーンインフラに決まり、委員会にて調査・研究が進められているところである。令和8年度末には提言が提出される予定であり、その対応が必要となる。</p>			<p>・公共施設へのモデルガーデン設置 ・市職員を対象とした研修会開催 ・事業者及び公園指定管理者を対象としたワークショップの開催(主に雨庭づくり) ・市民を対象としたワークショップの開催(主に設置した雨庭の維持管理など) ・国や都と連携した調査、研究、並びに成果報告など(グリーンインフラ官民連携プラットフォームへの参加)</p>			
4	施策番号	37	細施策番号	1	細施策名	水循環の再生と水質保全	事業名	管路建設改良費	
	目標設定にあたって重視した点					市民生活・地域経済の回復、発展			
	【目的】			【目標（2030年のあるべき姿）】			【目標（年度末のあるべき姿）】		
	<p>公共用水域の水質保全のための下水道施設等を整備するとともに、老朽化した下水道施設の延命化を図ることで、生活環境の保全を図る。 併せて、埼玉県八潮市で発生した下水道管の破損に起因した道路陥没事故を受けて、国から要請のあった全国特別重点調査に基づく管路改築工事を実施することで、道路陥没事故等を未然に防ぐ。</p>			<p>老朽化した下水道施設について、下水道ストックマネジメント計画に基づき、効果効率的に長寿命化対策工事等を実施し、下水道施設の破損等に起因する道路陥没事故等を未然に防ぐことで、安全安心な生活環境の確保を図っている。</p>			<p>・今年度予定している長寿命化対策工事約4kmについて、確実に完了している ・緊急度Ⅰと判定された管路について、原則1年以内に現場での対策が完了している、もしくは応急措置を1年以内に実施するとともに、設計委託する等計画性をもって対策を実施している</p>		
【現状】			【課題】			【事業内容】			
<p>維持管理する下水道管路の総延長約2,230kmのうち、標準耐用年数50年を経過した管路も多く、優先順位付けし長寿命化対策として管更生工事を実施している。 また、全国特別重点調査に基づき緊急度Ⅰと判定された管路について、管路改築工事のための準備を行っている。</p>			<p>・老朽化した下水道施設の長寿命化対策について、特に中大口径管の管更生工事は経費とともに工期も多くを要することから、効果効率的な対策の実施。 ・全国特別重点調査に基づく緊急度Ⅰと判定された管路については、原則1年での対策を求められていることから、効率的な対策の実施。</p>			<p>・下水道ストックマネジメント計画に基づく老朽化した管路の長寿命化対策 ・全国特別重点調査に基づく緊急度Ⅰと判定された管路の管路改築工事</p>			

5	施策番号	33 35 37	細施策番号	1 2 1	細施策名	環境教育・環境学習の推進 廃棄物処理の最適化 水循環の再生と水質保全	事業名	北野地区施設再編検討	
	目標設定にあたって重視した点					経営計画に掲げる重点事業の推進			
	【目的】			【目標（2030年のあるべき姿）】			【目標（年度末のあるべき姿）】		
北野地区の跡地活用基本構想に基づき、北野地区における公共施設の再編のため、官民連携による跡地活用を進める。			<ul style="list-style-type: none"> <li>北野地区において新たな北野環境学習センターが設置され、環境配慮行動の基盤となる環境学習・環境教育の拠点として機能している。（環境学習推進課）</li> <li>民間活力等により旧北野清掃工場の解体及び利活用について整理されている。（資源循環課）</li> <li>広域化共同化への方向性と新たな施設の移転先が決定し、新施設の建設工事に向けて契約等手続きを進めている。（下水道課）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>跡地全体で一体的に環境学習・教育を推進するための準備が整っている。（環境学習推進課）</li> <li>跡地活用に向けた施設再編検討調査（解体を踏まえた詳細設計委託）が完了（環境学習推進課・下水道課）</li> <li>他自治体との広域化共同化が整理され、移転先や新施設の整備手法等についてその方向性を決定（下水道課）</li> </ul>			
【現状】			【課題】			【事業内容】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>北野下水処理場・清掃工場跡地活用に向けて、アスベスト調査及び土壌調査等の基礎調査実施。（環境学習推進課・資源循環課・下水道課）</li> <li>旧北野清掃工場の合理的な解体に向け、予算措置する。（資源循環課）</li> <li>老朽化が進む北野衛生処理センターの再構築について、広域化共同化も視野に入れつつ、関連所管と協議を進めるとともに、移転先等の検討を進めている。（下水道課）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>跡地活用後の環境学習センターのあるべき姿の検討。（環境学習推進課）</li> <li>環境学習センターと北野地区の跡地活用基本構想における連動・一体的な環境への取組。（環境学習推進課）</li> <li>各施設整備や解体に伴い、敷地内でのストックヤードや既設の搬入経路など錯綜部分の解消（環境学習推進課・資源循環課・下水道課）</li> <li>他自治体との広域化共同化に向けた協議（下水道課）</li> <li>他施設の解体等も含めた移転から旧施設解体までのスケジュール（下水道課）</li> <li>人件費や物価の高騰による建設及び解体費用の増大（環境学習推進課・資源循環課・下水道課）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>第3次環境基本計画に沿った環境学習センターのあるべき姿（エコひろば・クールセンター含む）を検討し、跡地活用後の準備を進める。（環境学習推進課）</li> <li>北野地区の跡地活用基本構想のスケジュールを踏まえた環境学習センターの取組の検討。（環境学習推進課）</li> <li>北野地区内その他施設の動向を踏まえ、庁内連携し、旧北野清掃工場の解体及び利活用について検討を推進する。（資源循環課）</li> <li>他自治体との広域化共同化に向けた協議（下水道課）</li> <li>移転先の選定（下水道課）</li> <li>現施設の解体及び新施設の建設に伴う整備手法の検討（下水道課）</li> </ul>			
6	施策番号	37	細施策番号	1	細施策名	水循環の再生と水質保全	事業名	固定資産除却損	
	目標設定にあたって重視した点					市民生活・地域経済の回復、発展			
	【目的】			【目標（2030年のあるべき姿）】			【目標（年度末のあるべき姿）】		
令和3年1月の流域編入完了に伴い、不用となった旧北野下水処理場の解体を行い、北野地区の跡地活用構想に寄与する。			旧北野下水処理場本場及び分場の解体工事完了に伴い、その跡地が活用できる状態			分場の機械設備撤去工事及び建物解体工事を一括発注し、契約締結及び工事着手			
【現状】			【課題】			【事業内容】			
令和7年3定にて補正予算を編成し、まずは機械設備撤去工事の契約締結を目指し、手続を行ったが契約不調となってしまったことから、スケジュールの再見直しを余儀なくされている。			<ul style="list-style-type: none"> <li>機械設備撤去工事が契約不調となったことから、不用施設の解体完了に向けて、今後の発注方法をはじめその全体スケジュール</li> <li>分場の機械設備撤去及び建物解体を一括して工事発注するための関係所管との調整</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>旧北野下水処理場不用施設の解体</li> </ul>			

7	施策番号	37	細施策番号	1	細施策名	水循環の再生と水質保全	事業名	(収入管理)	
	目標設定にあたって重視した点				経営計画に掲げる経営改革の取組の推進				
	【目的】			【目標（2030年のあるべき姿）】			【目標（年度末のあるべき姿）】		
	下水道事業を効果効率的に執行を行うには、下水道使用料等の公平公正な収入の確保をしなければならないため。			使用料等の改定が適宜適正に行われ、下水道事業において健全な経営が継続されている。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和9年度以降の経営状況を踏まえた、使用料体系が確立している状況</li> <li>・適正な賦課徴収が行われている状況</li> </ul>		
【現状】			【課題】			【事業内容】			
下水道使用料や受益者負担金において、適正な賦課ができていないケースがあり、公平公正な徴収ができていない。 また、物価高騰などの影響により、令和8年度から、単年度収支が赤字になる見通しであり、下水道使用料の改定を行わなければならない状況である。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道使用料及び受益者負担金における業務で、適正な処理が行われていない案件があるため、調査等を充実させ適正な処理に努める。</li> <li>・使用料改定に向けて、使用料の方針を立て、方向性を決定する。</li> <li>・職員不足、施設の老朽化、下水道使用料収入の減少等、地方公共団体の抱える課題を解決し、下水道分野の持続性を向上させるためのひとつの有効な手段としてウォーターPPPの検討が必要。</li> </ul>			下水道事業において健全な経営状況を持続させるにあたり、下水道事業の使用料・受益者負担金において、現況確認なども定期的実施することで、公平で適正な賦課を行い、確実な収入確保につなげる。			